

5月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

30年5月のD I 値は8指標中、「設備操業度」と「雇用人員」が小幅ながら上昇。「売上高」と「取引条件」は横這いであり、残り4指標は下落となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

機械金属業界では、設備投資増加に伴い、業況の好転が窺える。また家電製品小売業では、引き続き省エネ家電の買換需要が堅調であり、商店街においても、好天気や気温上昇で人の動きが良くなり、売上高が増加したとの明るい報告も寄せられた。

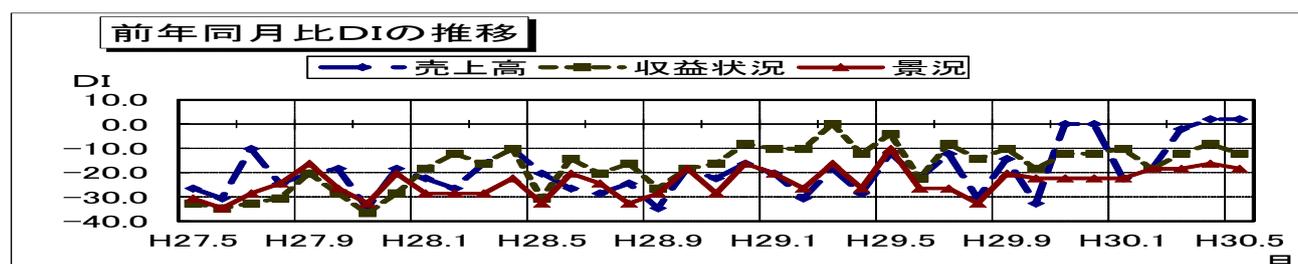
一方、慢性化する労働力問題に加えて、技術者の減少、依然として続く原材料高や軽油を初めとする燃料価格の上昇を嘆く声が寄せられた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	H29 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	前月比 増減
景況	-10.2	-26.5	-26.5	-32.7	-20.4	-22.4	-22.4	-22.4	-22.4	-18.4	-18.4	-16.3	-18.4	-2.1
売上高	-12.2	-22.4	-12.2	-30.6	-14.3	-32.7	0.0	0.0	-22.4	-18.4	-2.0	2.0	2.0	0.0
収益状況	-4.1	-22.4	-8.2	-14.3	-10.2	-18.4	-12.2	-12.2	-10.2	-18.4	-12.2	-8.2	-12.2	-4.0
販売価格	8.2	-2.0	-6.1	4.1	0.0	10.2	16.3	12.2	20.4	8.2	18.4	10.2	4.1	-6.1
取引条件	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	-6.1	-4.1	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	0.0
資金繰り	0.0	-10.2	-6.1	-8.2	-10.2	-10.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	0.0	-4.1	-4.1
設備操業度	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	2.0
雇用人員	-10.2	-6.1	-4.1	-12.2	-12.2	-18.4	-12.2	-14.3	-14.3	-18.4	-20.4	-18.4	-16.3	2.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は102.9%となり、わずかながら増加した。出荷量は99.1%となり、持ち直してきたが、まだ荷動きが悪い。主原料の外国産米の価格は高値のまま推移。国産加工用米も価格の上昇が続いている。

<繊維・同製品>

2. 縫製・雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。売上、収益とも低目安定状態であるものの、国内販売の頭打ちの感は拭えず、将来の景気回復への見通しは厳しい。

<木材・木製品>

3. 木材・原木丸太にとって不需要期であるが、依然引き合い多く価格も強含みに展開し、低質材についても合板、製紙用木材、バイオマス発電用と需要は旺盛である。一方一般建築製材製品需要は未だ厳しき横這いで推移している。

4. 製材・製材品の動きが悪く、受注・見積もり物件ともに低調。

5. 木材・当組合員のほとんどが、リフォーム関連の仕事を主にしている。リフォームは、建材仕様が主で技術がほとんどいない。今後、新築の戸建て住宅、特に木造住宅は益々難しい時代になっていくと思う。

<印刷>

6. 印刷・5月は休みが多く売上も上がりにくい月である。新聞紙上ではカタログやチラシに使う印刷用紙の卸売価格が約2年ぶりに6~7%下落した事が報道されている。出荷量の減少で在庫が膨らんだことによるものだが、安い価格を提示しても需要が伸びるわけでもなく、製紙会社の生産調整ですぐに価格は戻ってしまうだろう。印刷会社の良い材料にはなりそうもない。だんだんと進んでいく、需要減少による価格競争に拍車がかかり厳しい状況が予想される。

7. 印刷・5月は前年同月とほぼ変わらない様子であった。ただ、5月は休業日が多く製造業である印刷各社は他の月と比べるとやはり生産量は落ちてしまう。5月の製造の現場は昨年並みであったようだが、営業部門の受注はどうも芳しくないという話も聞こえてくる。6月以降の数字がどうなるのか、不透明感が強いようだ。

<窯業・土石製品>

8. 生コン・5月は昨年同月に比べて約10%程度出荷量は減少した。5月は連休があり休みが多いことと、仕事の量もそれほど忙しくない時期でもあるが、それでも5年ほど前に比べると、全体的に約3割以上出荷量が減ってきている。今後の見通しは新規トンネル工事の需要が夏頃になる予定であり、

その他新規の民間工事の需要が見込まれるが、公共工事の需要が年々減少しており、特需工事があっても全体的に減少と予想される。

9. 生 コ ン ・ 5月の出荷数量は、対前年同月比5%の減少となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して民間での新規新設工事が少なかった事が影響している。収益については、原材料の引き上げ交渉が進んでおり、セメント価格にまで及んでいる。引き上げ結果内容によっては、昨年の生コン価格引き上げ効果が薄れ厳しいものとなる。今後の出荷数量も減少傾向にあり、県内生コン工場において収益面の見通しは厳しい。

<鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼 ・ 業況に大きな変化はなく、売上、設備操業度などにも大きな動きは見られないところである。なお、一部には引き合いの増加や新たな設備投資の動きが見受けられるが、総じて景況感は横這い状況である。また、引き続き技術者など人材確保に苦慮している。
11. ス テ ン レ ス ・ 国内の設備投資は大手を中心に実施されており、中小企業の動きにも期待している状況ではあるが、原油を含めた原材料価格の高騰の影響が懸念される。

<一般機器>

12. 機 械 金 属 ・ 全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。ただ、顧客の設備投資増加等に伴う業況の好転が一部見られるものの、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また引き続き、原材料の不足、原材料価格等の上昇、従業員の確保難などが直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

13. 食 糧 卸 ・ 田植えもほとんど終わり、業界は29年産の在庫調整に入った。

<小売業>

14. ショッピングセンター ・ 売上高は全店計94.6%(既存店96.3%)、客数は91.5%(92.6%)と先月より若干良くなったが、依然として低迷が続いている。
15. 機 械 器 具 ・ 梅雨入りが例年より早まったため小売条件が悪化。
16. 電 気 機 器 ・ 先月と同様、買換え中心のエアコン、冷蔵庫、LED照明は順調な動き。TV等映像関連機器も少し動きが出てきた。
17. 畳 小 売 業 ・ G.W明けより仕事量は少なく、業務用のホテル等の見積りはあったが、いずれも夏休み前までに仕上げる現場で、5月にかかれる現場が少なかった。
18. プロパンガス ・ 夏にかけ、消費機器の交換期限が迫っているので、期限切れの無いよう、順次交換を行い、点検に努める。

<商店街>

19. 徳 島 市 ・ 前月の落ち込み分を含み上昇。気候の変化により人の動きも良くなり、イベントの効果も加わり上昇気味。

<サービス業>

20. 土木建築業・平成30年度業務件数は29年度同様に受注。今年度の受注金額は、去年4月と同じ技術者単価で積算し、単価変更はないものと思い、去年より増額した入札を行った、入札決定後、単価変更の通達があり、全5業務で1千万以上の変更増額となった。(前年度より2千万増)担当技術者の人員は変更がなく、配置替えが行われた。工事全体の工事量は、新直轄の工事金額が増額する見込みである。5月末期まで、H31年度概算予算要求の資料作成で、各課とも業務多忙を極め、残業、休日作業を余儀なくされた。予算要求局ヒアリングが終わっても、本局(東京)から局(高松)への質問事項等があり、局から各事務所に修正作業依頼がある。またH30年度発注工事・業務の資料作成が多々あり、6月末までは各課とも忙しい。各課とも、職員の入れ替えがあり、また新卒職員が配属され、仕事がなかなか進まない。担当技術者の負担が大きくなっている。
21. 自動車販売整備業・登録自動車(普通車)の新車登録台数は対前年同月比-4.1%の1,211台、中古車は-0.2%の442台、合計では-3.1%の1,653台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比5.1%の1,049台、中古車9.9%の489台、合計は6.6%の1,538台である。登録自動車(普通車)・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比1.3%の3,191台と微増。軽自動車の新車販売台数は、好調だった先月から200台ほど減少し、昨年並みに戻った。登録車とあわせた新車販売台数は対前年比1.3%増でほぼ変わらない。収益状況の目安となる継続検査(車検等)の台数は昨年より1割ほど減少。
22. 旅行業・特に大きな変化はなかったが、今月に限らず最近ずっと団体旅行が減っている。

<建設業>

23. 建設業・公共工事の発注が少し多くなった。
24. 鉄骨・鉄筋工事業・4月に新規雇用した工場もあるが、全体からみると人員の増加までいたっていない。
25. 電気工事業・新設住宅口数は428件であり、対前年比78.9%と大幅に減少した。
26. 板金工事業・仕事量は順調にある。

<運輸業>

27. 貨物運送業・一般貨物輸送は、連休で営業日数が少なく、全般的に低調に推移。ただ、近距離食品関連の輸送は例年並み。また軽油単価は月中平均で100円/Lの大台に乗り、前月比+6円弱(前年同月平均比+20円強)と収益圧迫の原因となっている。
28. 貨物運送業・軽油価格が上昇し、コストが増加している。製造関係では、GWがあるため5月前半は輸送量が落ちるが、概ね例年通りである。青果関係では、今年は人参が天候の影響かやや小ぶりで輸送量も少なめであったが、シーズン中旬を過ぎた5月には概ね例年通りである。